事業コード	R元-建-新-02		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方道路交付金事業 (交通安全)		部局課室名	建設部 道路課
事業種別	歩道設置事業		班 名	道路環境・維持班 (tel)018-860-2488
路線名等	国道282号		担当課長名	道路課長 佐藤 秀治
箇所名	小坂町苦竹		担当者名	副主幹(兼) 班長 大森 郁夫
プランとの 関連	政策コード	04	政策名	秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略
	施策コード	05	施策名	県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備
	指標コード	04	施策目標(指標)名	日々の暮らしを支える生活道路の機能強化

1. 事業の概要

事業期間	R2 ~ R5 (4年)	総事業費	3.0 億円			国庫補助率	65.45
事業規模	延長 : L=280m 幅員 : W=6.0(10.5)m (1.25-3.00-3.00-0.75-2.50)						
事業の立案 に至る背景	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一般国道282号は、岩手県滝沢市、鹿角市、小坂町、青森県平川市を結ぶ延長約120kmの幹線道路であるとともに、十和田八幡平国立公園を中心とした、観光拠点を連絡する観光道路としての機能も有している路線である。 ○ また冬期においては、東北自動車道等の閉鎖時に代替路線の役割を果たす重要な路線である。 ○ 当該区間は、小坂小学校・中学校一貫校の通学路として指定されており、児童や生徒の通学等に利用されている。 ○ 道路沿線は人家が連担しており、現道には歩道幅員1.0mの狭隘な歩道があるが、冬期は歩道への堆雪により課題が顕著になることから、歩行者の安全な歩行空間の確保ができていない状況である。 ○ 安全・安心な交通の確保を図るため、地元から早急な歩道整備を強く望まれている。 						
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ○ 通学路における児童や高齢者などの歩行者の安全・安心確保 ○ 地域の生活圏における交流活性化や利便性向上 						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	R 2 年 度	R 3 年 度	R 4 年 度	R 5 年 度 以 降
	事業費	300,000	20,000	15,000	185,000	80,000	
	経費	80,000				80,000	
	内訳	185,000			185,000		
	財源	35,000	20,000	15,000			
	内訳	196,350	13,090	9,818	121,082	52,360	
	内訳	93,100	6,200	4,600	57,500	24,800	
事業内容	10,550	710	582	6,418	2,840		
事業内容		路線測量 詳細設計	用地測量 建物調査	用地補償	道路土工 排水構造物工 舗装工		
調査経緯	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成28年度 道路概略設計 ○ 平成30年度 道路概略修正設計 						
上位計画での 位置付け	○ 第3期ふるさと秋田元気創造プランにおける重点戦略「秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略」を推進						
関連プロジ ェクト等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第10次秋田県交通安全計画 (H28~H32) ○ 小坂町通学路交通安全プログラム 						
事業を取り 巻く情勢の 変化	<ul style="list-style-type: none"> ○ 期成同盟会から歩道整備に関する要望書の提出 ○ 小坂町や地元自治会から歩道拡幅に関する要望書の提出 						
事業効果把 握の手法	指標名	通学路指定路線における歩道整備率					
	指標式	実績延長/通学路指定延長					
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標		低減指標の有無	○ 有 ● 無		
	目標値 a	67.7%		データ等の出典	道路課調べ		
	実績値 b	67.0%		把握の時期	平成31年 4月		
達成率 b/a	99.0%						

2. 所管課の1次評価

観 点	評価の内容 (特記事項)	評 価 点
必 要 性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 当該区間は、小坂小学校・中学校一貫校の通学路に指定されており、町営のバス路線としても利用されている生活道路である。しかし現況歩道が狭隘であり、特に、冬期は堆雪により歩道での歩行者同士のすれ違いが困難など、歩行空間の確保が課題となっている。 ○ 計画区間の前後は歩道設置済みであり、当該区間の歩道設置により、歩道の連続性を確保することができる。 	20点
緊 急 性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成16年に歩行者が重傷を負う交通事故が1件発生しており、特に冬期間は歩道が狭隘のため、車道路肩を歩く歩行者が事故に遭う危険性がある。 ○ 当該区間は、「小坂町通学路交通安全プログラム」において、要対策箇所として位置づけられており、早急に歩道の拡幅整備を実施する必要性のある箇所である。 	20点
有 効 性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歩道整備により連続性が確保され、車両と歩行者が分離されることで、児童等の歩行者の安全性が向上する。 	15点
効 率 性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一部供用等を図ることで事業効果の早期発現に努める。 ○ 現道拡幅のため早期に事業効果が発現する。 	10点
熟 度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 期成同盟会から歩道整備に関する要望書が提出されている。 ○ 小坂町や地元自治会から歩道拡幅に関する要望書が提出されている。 ○ 通学路合同点検を通して、PTAや警察等から歩道整備が求められている。 	15点
判 定	<p>ランク (● I ○ II ○ III)</p> <p>判定ランク I であり、事業実施箇所としての優先度はかなり高く、事業を実施すべきである。</p>	80点
総 合 評 価	<p>● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留</p> <p>評価結果から事業実施箇所としての優先度はかなり高く、事業を実施すべきである。</p>	

3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	○ 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
/	

4. 財政課長意見

意見内容	○ 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
/	

5. 最終評価 (新規箇所選定会議)

総合評価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
事業実施は妥当である。	

6. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

計画的な実施に努める。

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

公共事業箇所評価基準

評価種別 新規箇所評価
適用基準名 交通安全事業 (歩道)

事業コード (R元-建-新-02)
箇所名 (小坂町苦竹)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	12時間自動車交通量		4,000台/12h以上	10	5	・2,735台/12h
			1,000台/12h以上	5		
			1,000台/12h未満	0		
	歩行者交通量		100人/日以上	10	-	通学路以外の場合
			100人/日未満	5		
			学童・園児 40人/日以上	10		
			学童・園児 40人/日未満	5		
	歩道の連続性		計画区間前後に歩道あり	10	10	・起点側：歩道幅員2.5m ・終点側：歩道幅員2.5m
			計画区間前後の一方に歩道あり	5		
			計画区間前後に歩道なし	0		
	計		30	20		
緊急性	関連事業の有無		あり	10	0	
			なし	0		
	事故状況 (死傷事故)		歩行者の死傷事故あり	10	10	・人対車両の事故1件 (H16)
			車両単独もしくは相互の死傷事故あり	5		
			事故の発生なし	0		
通学路交通安全プログラムに基づく対策箇所等		該当あり	10	10	・小坂町交通安全プログラムにおける対策箇所	
		該当なし	0			
	計		30	20		
有効性	交通安全指定道路		あり	5	5	・3号基準該当
			なし	0		
	通学路指定		あり	5	5	・小坂小学校 (小坂中学校と一貫校)
			なし	0		
	公共施設 医療機関、公民館、図書館等		あり	5	5	・古苦竹自治会館
		なし	0			
	計		15	15		
効率性	供用開始までの期日		5年以内に供用開始可能であり効果の出現が早い	10	10	・現道拡幅のため、一部供用等を図ることで、早期の事業効果発現が可能
			供用開始まで6年から7年の時間を要する	5		
			供用開始まで8年以上と相当時間を要する	0		
	計		10	10		
熟度	地元ニーズ		要望あり	10	10	・小坂町より要望書
			要望なし	0		
	地元の協力体制		あり	5	5	・地元自治会より要望書
			なし	0		
	計		15	15		
合計				100	80	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	判定ランクIであり、事業実施箇所としての優先度は高く、事業を実施すべきである。
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		